

## ACPについての意見交換まとめ

### ACPについての冊子「もしものとき」について

- ・「ACP」は横文字なので、浸透しないのでは。
- ・「人生会議」という言葉もピンとこないかもしれないから、諫早市独自の言葉を作るのもいいかも。
- ・表紙が一番重要。自発的に取ってもらえるような言葉がいい。
- ・「人生の最期に大切にしたいことは何ですか？」のみにして、大きく書いてあれば、手に取ってくれると思う。
- ・「もしものとき」は。交通事故などいろいろな「もしも」が想定されるので、「最期」「死」という言葉を前面に出してはどうか。
- ・「もしものとき」＝「死ぬとき」だから怖くてみんな手に取らない。
- ・冊子の目的（普及啓発用ということ）をはっきりさせておく必要がある。
- ・何を訴えたいかをかいておかなければならない。
- ・現場用でないなら、表紙の「医療・ケアについて」の文言は外しておいたほうがいい。
- ・オレンジ手帳の中身と重なるところもある。
- ・エンディングノートとの整理。

### ACPについての研修会について

- ・市民向けの研修はACPの冊子を実際書いてもらうような方法がいいのではないか。
- ・ACP＝看取り ではなく、基礎の基礎がわかる内容がいい。

### ACP全体について

- ・病気になってから初めて考えるのではなく、元気なうちから考えるのが理想。
- ・まだ市民には浸透していないため、普及啓発により力を入れてほしい。
- ・専門職もACPの知識がそこまでないのが現状。
- ・ACPについての冊子「もしものとき」を市民に配布して、内容を尋ねられた時に詳しく説明できるかわからない。まずは、専門職の方の認識を広げていくべきなのでは。
- ・どこからとっかかればいいのかわからない。
- ・ACP＝看取りのイメージが強い。
- ・普及啓発はスピード感を持って。
- ・必要と感じていない人へのアピールをどうするか。